

外国語コンテスト「中国語（法・済・営・国）部門」講評

2025年12月4日（木）13時30分よりL606教室で開催された「中国語（法・済・営・国）部門」には、計40名の学生が参加しました。昨年より参加者が大幅に増えました。今年も基礎部門と応用部門に分け、学習歴に応じた課題文を朗読してもらいました。審査は高橋めぐみ先生と鄭高咏が担当しました。

基礎部門では、留学生が日本のパン屋でのアルバイト経験を母国で活かして、将来パン屋を開きたい、と語る課題文を採用しました。今年は1年生の参加者がとくに多く、27名が挑戦しましたが、中国語学習歴がわずか8ヶ月とは思えないほど完成度の高い朗読が続きました。

応用部門の課題文には、中国の寓話「ウサギとカメの競走」を題材にした物語を選びました。足の速いウサギが自信過剰になってカメをあざ笑い、途中で油断して眠ってしまいますが、カメは諦めずに進み続け、最後にはウサギより先にゴールします。この物語は、驕りや油断の危うさ、努力を積み重ねることの大切さを伝える寓意を持ち、中国語特有のリズムや感情表現の練習にも適しています。朗読においては、声調の使い分けや似た音の区別がとくに難しくなります。

たとえば「兔子（tùzi）」は4声+軽声で、語尾を落としすぎると不自然になります。「烏龟（wūguī）」は1声+1声のため、平らに伸ばす発音が乱れると抑揚がつきすぎてしまいます。また、「嘲笑（cháoxiào）」のような2声から4声へ跳ね上がる声調は、変

化を明確にしないと意味が伝わりにくい部分です。さらに、「比赛 (bǐsài)」「继续前进 (jìxù qiánjìn)」のように無気音や摩擦音が続く語は発音が甘いと聞き取りにくくなります。「一步一步地走 (yí bù yí bù de zǒu)」のように同じ声調やリズムが続く箇所は、単調に聞こえないよう高さや強弱で調整する必要があります。また、中国語では「意味の塊」を正しく区切ることが重要で、“兔子 / 像离弦的箭 / 一样 / 飞跑出去”や、“乌龟 / 一步步 / 向前爬”など、句読点がない箇所でも、呼吸の位置が不自然だと流暢さが損なわれます。

こうした難しさにもかかわらず、参加した 13 名全員が一生懸命に練習し、その成果をしっかりと示してくれました。厳正な審査の結果、以下の通り、順位を決定しました。

第 1 位 中村 未衣 国際コミュニケーション学部 4 年

第 2 位 中西 晃輝 国際コミュニケーション学部 3 年

第 3 位 白浜 濂月 経済学部 1 年

今年も、学生たちの成長と意欲が示された、意義あるコンテストになりました。

法学部 鄭 高咏